

令和4年度

自己点検・評価書
(学校評価報告書)

附属幼稚園

1 附属幼稚園の現況

(1) 学校名

大阪教育大学附属幼稚園

(2) 所在地

大阪府大阪市平野区流町2-1-79

(3) 学級数・収容定員

6級(1学年2学級) 収容定員150人 (1学級30人 ただし3歳児は16人と14人)

(4) 幼児・児童・生徒数

150人 (男児76人 女児74人)

(5) 教職員数

園長(併任) 1人、副園長 1人、主幹教諭 1人、教諭 6人、養護教諭 1人、非常勤講師 2人
事務職員 1人、臨時用務員 1人、スクールカウンセラー 1人
栄養士 2人、調理員 1人

2 附属幼稚園の特徴

豊かな自然環境の中で身近な人々とのあたたかい触れ合いや、生き物たちとの日々の関わりを通して、やさしく、あたたかく、思いやる心が育つことを願っている。

幼稚園生活の主人公は幼児であり、幼児の思いや願いを大切に生活を中心としている。幼児は遊びを通して様々なことを学んでいる。遊びこそが幼児の生活そのものであり、今日の幼児の姿から明日の生活が作り出されていく。常に幼児の今の姿を出発点として、個々の育ちや発達状況、その時期にふさわしい遊び(生活)が展開されていくよう、努めている。

また、昭和23年より保護者手作り給食を実施しており、約70年間にわたって受け継がれている。子どもたちに手作りの温かいものを食べさせてあげたいという願いと共に、食の安全や衛生、アレルギー対応など、時代の変化に応じた給食作りを目指している。

3 附属幼稚園の役割

- (1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行う。
- (2) 幼稚園教育の理論と実践に関する研究を行う。
- (3) 本学学生の教育実習を行い、その指導を行う。
- (4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与する。

4 附属幼稚園の学校教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

○ 3歳児・・・喜んで幼稚園へ来る子ども

生後わずか3年しかたっていない子どもであるが、一人の人間としてすばらしい力を持ち、一人一人がその子らしさを秘めている時期である。この1年をゆったりと大好きな先生に寄り添い、自分の好きな遊びに没頭し、明日も大好きな幼稚園に行こうと思うことが、これからの保育年限における健やかな育ちを期待する上で何よりも大切なことであるとする。

○ 4歳児・・・友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

友達の存在に心を揺り動かし、幼稚園では「いろいろな友達がいる」「一人より友達と一緒に生活が楽しい」「友達と関わり合って育つ」等の体験をしながら、幼稚園生活の楽しさを味わい、思う存分遊ぶ子どもに育つことを願っている。

○ 5歳児・・・友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

心身ともにたくましく、知的好奇心もぐんと増す時期である。試行錯誤を繰り返しながら全力で幼稚園の様々な生活に熱中し、一人でも、みんなとでも「やったね」という成就感を味わい、友達と力を合わせて楽しい園生活をつくり出す子どもに育つことを願っている。

5 附属幼稚園の学校教育計画

1 保育の質を向上するための研究活動の実施

研究テーマ「自分のよさや可能性に気付く保育の在り方を探る」

2 安全・安心な園づくり

3 開かれた園組織運営

4 教育実習の指導充実

自己評価		学校関係者評価	
A	高いレベルで達成できた	A	とても適切である
B	達成できた	B	おおむね適切である
C	一部達成できなかった	C	あまり適切でない
D	ほとんど達成できなかった	D	適切でない
		E	判定できない

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」		
学校教育計画	1 保育の質を向上するための研究活動の実施	研究テーマ「自分のよさや可能性に気付く保育の在り方を探る」	

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・一人一人のよさや可能性を捉える。	・一人一人のよさを見取るための保育指導案の工夫をする。 ・事例検討会や園内研修会を通して、一人一人のよさや可能性を捉える。 ・大学の教員や幼児教育関係者と連携する。	・保育指導案は無理なく継続できる形式を検討した。たくさん書くのではなく研究の視点に絞って一人一人のよさを捉えて書くことで継続しやすく、一人一人の幼児理解を深めることにも役立っている。 ・園内研や事例検討会で一人の幼児のよさや可能性について話し合うことで、より深く一人一人の幼児を理解することにつながった。 ・人数制限はあったものの研究成果を対面で発表することができた。参加者同士の意見交換もでき、有意義な研究発表会であった。	・他教師の自分とは違った幼児の見方を学ぶ機会になった。継続して実施できるようにしていきたい。 ・保育を見ていただいて語ることができたことはよかった。感染症の状況にもよるが、次年度は参加人数を増やして実施したい。	B	・達成レベルを決めてここまでというのではなく、多様性や個性を大切にし、そういう姿勢で子どもに向き合うことが大切ではないか。 ・一度やめた行事を戻すのは大変である。研究会に参加しようという人をいかに増やしていくかが大切である。	A	・教職員間で連携を密にし、多様性を大切にした幼児理解を深めていくようにしていきたい。 ・研究会に参加することによって多くの学びがあることをアピールし、研究会の参加人数を増やしていきたい。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	2 安全・安心な園づくり

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・教職員の安全に関する意識を高め、安全・安心な園づくりに取り組む。	・月1回の安全点検を丁寧に実施する。 ・避難訓練など安全に関する取り組みについては事前、事後の話し合いを密にする。	・安全点検では二人一組で実施することにより、より丁寧に安全点検することにつながった。一人では見落としがちなことも複数で実施することにより、危険を事前に予測したり、より安全な環境づくりにつながったりした。また、危険な箇所を見つけた時は事後処置も合わせて記入することで、即時に対応できることにつながった。 ・避難訓練に加えて防犯教室、交通安全教室、防災体験会を対面で実施することができた。	・安全点検の結果は担当と管理職で共有しているが、今後全員で共有してより広い視野で安全に関する意識を高められるようにしていきたい。 ・安全点検の記入用紙にヒヤリハットの欄を設けているがうまく活用できていない。些細なことでも記入するように教職員の意識を高めていきたい。 ・コロナ禍の中でも安全に関する行事ができてよかった。今後も継続して行っていくことに意義があると考えている。	A	・その場その場の危険を把握し、それに応じた対応を考えていくことが大事ではないか。 ・ヒヤリハットを共通理解することは有効であると考えます。教職員が瞬時に危険に気付く力をつけていくようにすることが大切ではないか。	A	・一人一人の教職員が危険に対して敏感に反応できるように、日頃から教職員間で意見交換をしていきたい。一人の教員の気づきを全員に広めていくことで、安全に対して意識を高くもった教職員集団が育っていくものと思われる。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	3 開かれた園組織運営

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・保護者との連携を密にし、園運営への参画の意識を高めてもらう。	・保育参加を再開し、園生活に関して保護者の意見をもらい、園運営へ生かしていく。	・保育参加を全面的に再開したことで、保護者が園生活をよりよく知るきっかけとなり、日頃から感じている疑問点について話し合ったり、よりよくしようとどうすればよいかを保護者と共に考え合ったりする機会となった。 ・大きな行事に関してはこれまで通り子どもの成長を担任と共有できるように「ニコニコメッセージ」という形で感想を書いてもらっている。これは一人一人の成長を捉えたり、保護者の感想を聞いたりするためにも有効であったと考える。	・保護者も子どもたちも、もっと縦のつながりが必要だという意見があった。次年度の園生活を見直すと共に、給食当番やクラブ活動などのPTA活動の在り方も再検討していきたい。	B	・幼稚園で園運営に関わったりPTA活動に参加したりすることが、その後の学校生活への参画の仕方につながってくる。そういう意味で幼稚園運営に保護者が関わるのは大事である。	B	・保護者がもっと園運営に関わっていける機会を今後も探っていく。また、保護者同士のつながりがもつともてるように、園行事の在り方を見直していく。

学校教育目標	「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」
学校教育計画	4 教育実習の指導充実・五校園連携実習の実施

本年度の重点目標 (評価項目)	具体的な取組内容 (評価指標)	自己点検評価			学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
		達成状況	改善点	評価	意見・理由	評価	
・学びの深い教育実習 の在り方を探る。	・実習前後の取り組み の充実を図る。	・実習前後に学生ボランティア を募った。実習後に参加する ことにより、実習での学びを 再確認したり、実習前に参加 することにより心構えができ たりることにつながっている と感じる。	・学生ボランティアという形 で実習前後の学びを深めて いるため、参加する学生は 全員ではない。幼稚園から ももっとアピールして実習 前後に幼稚園に来て学ぶこ との大切さを伝えていきた い。	B	・話し合いで意見交換がで きるようにしていくには 具体的な方法をイメージ しておく方がよい。学生 同士がアイスブレイクの 時間をもったり、先生方 がファシリテーターにつ いて学んだりするなどの 機会も必要ではないか。	B	・学生同士が話し合いやす い雰囲気をつくれるよう な方法を教師自身が学ん でいきたい。
	・実習生同士の意見交 換を活発にし、自分 たちで学びを深めら れるようにする。	・公開保育後の話し合いなどは 積極的に意見を出す学生が多 かった。また、人の意見を聞 いて自分の保育の改善に生か そうとする姿も見られた。	・公開保育後の話し合いでは 意見を順に言うだけでな く、意見交換となるような 工夫が必要である。				

